

(様式 1－1)

平成 2 7 年度
いしかわニュースーパーハイスクール
事業報告書

学校名：石川県立七尾高等学校

1. 「学校設定科目」での取組

1-1 科目名「スピークアウト」

(1) 「スピークアウト」1年生(1単位)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 1年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

グローバル社会で活躍するための資源、エネルギーとなる「英語」で、自分の考えを発信する力を育成する。

③日時内容

4～5月	出身地域について発表
6～7月	ディスカッション「異文化と私」 七尾市内の中学生との合同授業実施(1回目) 8月にイングリッシュスピーチフェスティバルで発表
9～10月	海外トップ大学についての研究と発表 七尾市内の中学生との合同授業実施(2回目) NUS(シンガポール国立大学)ハイスクール生徒との交流準備
11月～1月	ディベート「政府による高校生の海外留学促進の是非」 七尾市中学校スピーチコンテストでモデルスピーチを披露
2～3月	スピーチコンテストに向けての準備



七尾市内中学校との合同授業

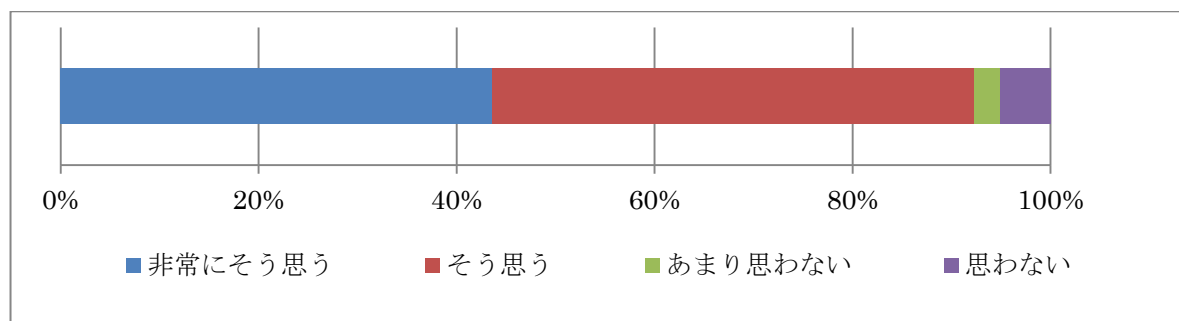


A L T 2名を含む6名の教員で指導

④生徒の変容

- ・用意した原稿を発表する段階から即興的な応答ができる段階になってきた。
- ・外国語研究部に所属する生徒がディベート大会で入賞した。

Q「スピークアウト」を通じて英語で発信する能力がつけましたか。



【生徒の感想】

- ・A L T と話す機会が多く、英語でのコミュニケーションに自信がついた。
- ・スピーチやプレゼンテーションを通して様々な英語の能力が上がった。

⑤改善の方向性や取組

- ・今年度は準備、調査を重視することにより、内容を深めることが出来たが、十分な時間の確保は難しかった。ユニット制を年間を通して導入することにより、より計画的・効率的な実施に努める。
- ・内容を深めたことで難しさを感じている生徒もいる。協働型のタスクを設定することで、英語力の差はあってもグループの中で誰でも役割を発揮できるように活動を工夫する。

(2) 「スピークアウト」 2 年生 (1 単位)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2 年 40 名

②目指すべき姿・つきたい力

国際的な場面で自分の考えを英語で論理的に伝える力を育成する。

③日時内容

4～5 月	「七尾高校の学校生活や歴史について」の発表
6～8 月	イギリス海外研修でのプレゼン発表準備
9 月	イギリス海外研修に必要な実践的英会話練習
10～1 月	イギリス海外研修の事後学習とまとめ NUS(シンガポール国立大学)ハイスクール生徒との交流準備
2～3 月	スピーチコンテストに向けての準備



NUSHS 生との交流

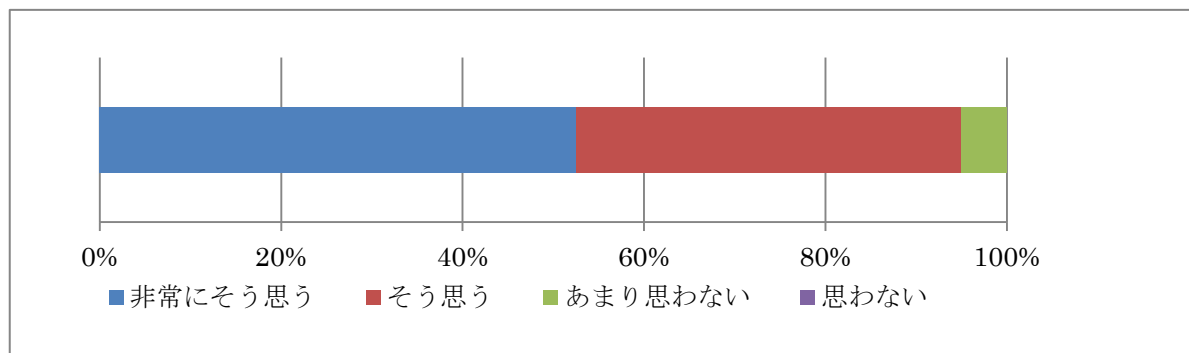


海外研修直前予行練習の様子

④生徒の変容

- ・ふるさと能登について自信を持って英語で発信できるようになった。
- ・イギリスと日本を比較することで、世界に向けて視野を広げ、国際的な諸問題に対して自分の意見を発信することができつつある。
- ・外国語研究部に所属する 21H の生徒が第 22 回石川県高等学校英語暗唱コンテストで準優勝した。

Q 「スピークアウト」を通じて英語で発信する能力がつけましたか。



⑤改善の方向性や取組

総合的な学習の時間である「国際理解」と連携し、発表内容を深めることが出来た。今年は「論述錬磨」との連携が出来なかったため、「スピークアウト」「論述錬磨」「国際理解」の3つの授業が相互に関連し合う場面をつくり、更に多面的な視点から考察し、発表できるようにする。

1-2 科目名「論述錬磨」

(1)「論述錬磨」1年生(1単位)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 1年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・さまざまな評論文を的確に読み取り、現代的な課題について理解を深める。
- ・基礎的な分析力とともに自己の考えをまとめ、表現する力を身につける。

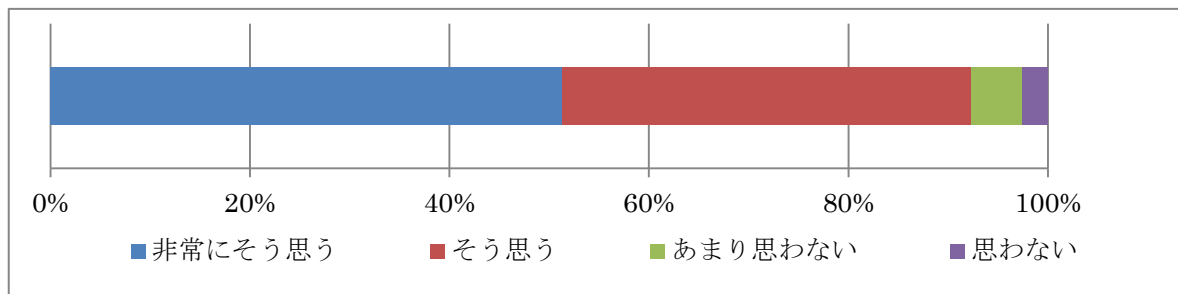
③日時内容

4～6月	評論文の構成・展開の理解
7～10月	文化・文明論の読解(異文化理解の基礎)
10～12月	言語・芸術論・人生論の読解
1～3月	評論演習と生徒同士による解説・質疑応答

④生徒の変容

- ・ICTを用いた全体での情報共有やグループワークなどの活動を通して知見を広げ、論理的に読む力がついている。
- ・応用問題に取り組む意欲が増した。

Q「論述錬磨」を通じて、様々な知見を広めるとともに、読解・表現力が身につきましたか。



【生徒の感想】

- ・文章の構成を考えて読めるようになった。
- ・自分の記述力や判断力が向上し、周りの人の意見を参考にしてより良い解答を導くことが出来た。

⑤改善の方向性や取組

- ・高度な内容の評論を扱っているが、1単位での開講のため、解説の時間が不足する傾向にある。予習内容を見直し、授業時間中の解説の時間を確保する。
- ・一部の生徒からはスピードが速いという声があるので、配付プリントなどを工夫し、復習しやすい内容とする。

(2)「論述錬磨」2年生(1単位)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・現代的課題を理解・分析し、論理的に自分の考えを表現する。
- ・多様な分野の評論を読み解き、論理的な文章の構成を理解し、要約する力をつける。

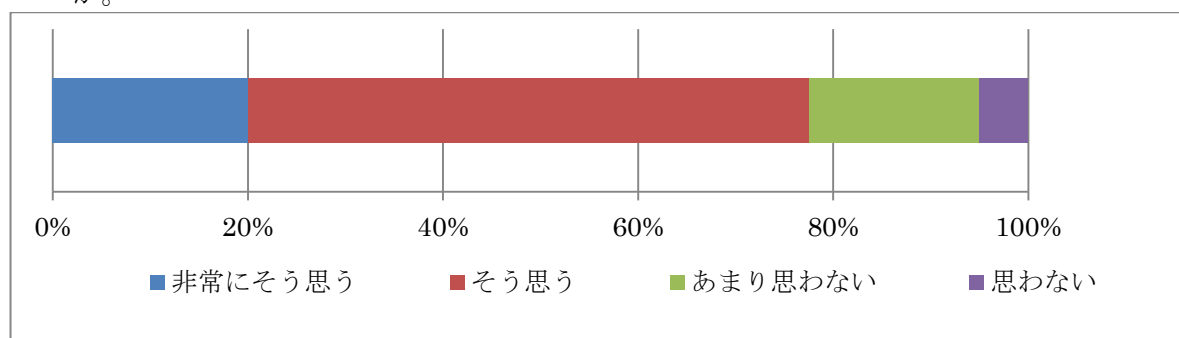
③日時内容

4～5月	言語論
6～7月	認知哲学
9～10月	小説 分析・読解（芥川作品を題材として）
11～12月	評論 分析・読解（様々な分野の評論を用いて）
1～3月	ハイレベル問題演習

④生徒の変容

- ・抽象度の高い評論文への抵抗感も薄らぎ、より高次の読解力や論理的表現力を身につけている。
- ・取材力や学んだことの整理・発表、プレゼンテーション能力などが向上している。

Q「論述錬磨」を通じて、様々な知見を広めるとともに、読解・表現力が身につきましたか。



【生徒の感想】

- ・1年次より論理的に考察できるようになった。
- ・難しいものが多かったが、粘り強く読めるようになった。
- ・他の人の意見を聞き、知見を深めることが出来た。

⑤改善の方向性や取組

取り扱う文章が高度化することで難しさを感じている生徒が一定数存在する。理解度を確認しながら進めると同時に内容の精選を図る。

2. 「総合的な学習の時間」での取組

(1) 「国際理解」2年生（週2単位）

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

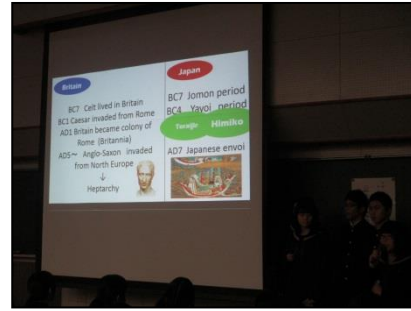
- ・自他国の地理、歴史、文化を理解し尊重する能力と態度を育成する。
- ・国際社会の諸問題について、自分の考えをまとめ、表現できる能力を育成する。

③日時内容

4月～7月	イギリス海外研修事前学習 日本とイギリスの比較研究
9月	中間発表
10月	イギリス海外研修事後学習と学習内容のまとめ
11～1月	能登の「インバウンド観光」促進のための方策の発表
2～3月	イギリスを中心に世界を地理的、歴史的、文化的に深く学ぶ発展的学習



能登の観光促進に関する発表

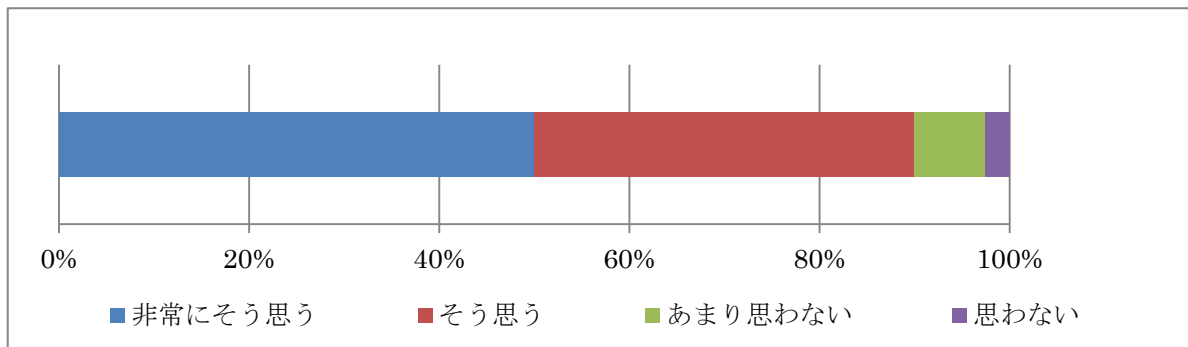


日英の文化比較についての発表

④生徒の変容

- ・筋道を立てて意見を述べるできるようになった。
- ・データを収集し、根拠を持って論証できるようになった。
- ・論証するためのデータを扱うことで情報の活用力が身についた。

Q「国際理解」を通じて、世界について総合的に学び、多角的な視点で考えることができましたか。



⑤改善の方向性や取組

様々な観点から十分に調べて研修に向かったと考えていたが、実際に行ってみるとイギリスからの視点については不十分だと感じる面があった。研修前にイギリスの方の意見も取り入れ準備させる。

(3)「国際理解」3年生(1単位)

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 3年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・各国の歴史的特徴について理解を深めることで、異文化の人と交流する上で必要な教養を身につける。
- ・現代の国際社会が抱える諸問題について、その歴史的背景を踏まえて、客観的に分析・考察する能力と態度を育成する。

③日時内容

4～7月	アジア各国史
9～10月	ヨーロッパ各国史
11月	キリスト教史・社会文化史
12月	復習

④生徒の変容

- ・政治史だけでなく、社会制度史、文化史など多様な視点で歴史を捉えることで、現在につながる各国の歴史的歩みについて深く理解することが出来た。
- ・過去の文化や文明の衝突から、現代社会が抱える問題点について比較・分析し、考えを深めることが出来た。

⑤改善の方向性や取り組み

ユニット制を年間を通じて取り入れ、知識習得・知識活用・課題発見・仮説形成・課題解決・発表を1サイクルとして学習成果の達成度をルーブリックで評価する。

(4) イギリス海外研修事前・事後学習

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・異文化理解や国際理解の意義を認識し、海外研修の目的意識を明確にする。
- ・海外研修での体験を振り返って自己の成長を認識し、自分の生き方にどう反映させていくかについて考える。
- ・ふるさと能登をアピールし、その魅力を異文化の人々に伝えることのできる発信力を身につける。

③日時内容

日時	内容
平成27年 4月27日	海外研修概要と事前準備について
平成27年 5月26日	研修の意義と目標設定
平成27年 6月18日	コミュニケーションの取り方
平成27年 7月16日	ホームステイ上のケーススタディ①
平成27年 9月 3日	ホームステイ上のケーススタディ②
平成27年 9月17日	川西教授による講義
平成27年10月27日	総括と今後の目標設定



研修に向けて決意表明



ペアワークの様子

④生徒の変容

【生徒の感想】（川西教授の講義について）

- ・これまで積み重ねてきた学習や活動が、今回の講義を聞いてひとつにまとまりました。
- ・ロンドンに行く前にこの話が聞けてよかった。
- ・冒頭のインドの学生の学びへの食欲さの話が心に残りました。

⑤改善の方向性や取組

昨年度と同様、北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）国際連携・国際交流担当学長補佐である川西俊吾教授による講義を実施した。異文化交流の基本について、しかも全て分かりやすい英語で講義していただけたので生徒の動機付けに効果があった。来年度は講義に加え、生徒からの積極的な発言を促すワークショップ型の導入を含め改善を図る。

3. 特色ある教育活動

(1) 「語学キャンプ」

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 1・2年 80名

②目指すべき姿・つきたい力

国内で海外研修同等の英語漬けの環境で生活し、実践的な英語活用能力を高める。

③日時内容 平成27年8月17日(月)～19日(水) 2泊3日

	11H	21H
17日 (月)	入所式・オリエンテーション	
	ALTによる言語活動	外部講師による言語活動①
	自習	外部講師による言語活動②
18日 (火)	外部講師による言語活動：ディベート①	海外研修に向けた ALTとのディスカッション とインタビュー
	外部講師による言語活動：ディベート② まとめポスター作製	
		まとめポスター作製
19日 (水)	研修成果の発表(1年生→2年生)	
	研修成果の発表(2年生→1年生)	
	退所式	



ALTとのディスカッション



最終発表の様子

④生徒の変容

【アンケートと感想】 ※グラフ中の「2」は2年生、「1」は1年生を表す。

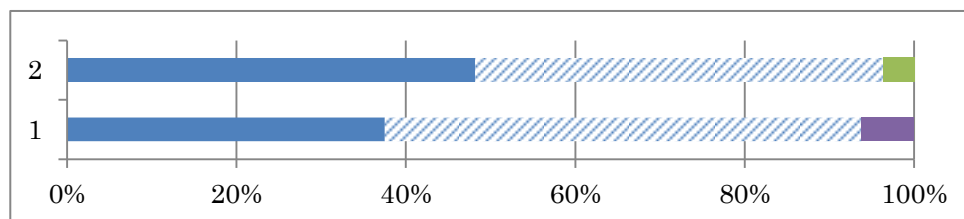
1. 英語のネイティブスピーカーたちとコミュニケーションを図ることができましたか。

1 積極的にやりとりができた

2 必要なやりとりができた

3 一方的に伝えるだけ、または聞くだけだった

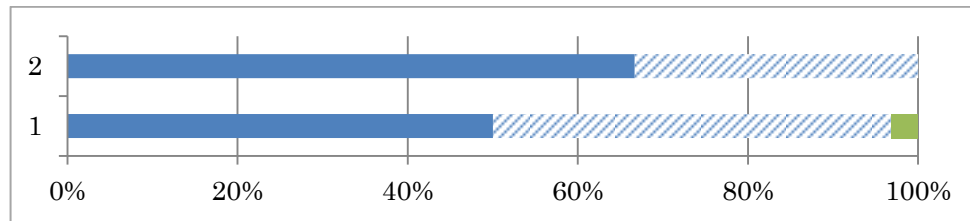
4 自分から話しかけることはしなかった



【感想】 去年と比べるととてもコミュニケーションを図ることができた。

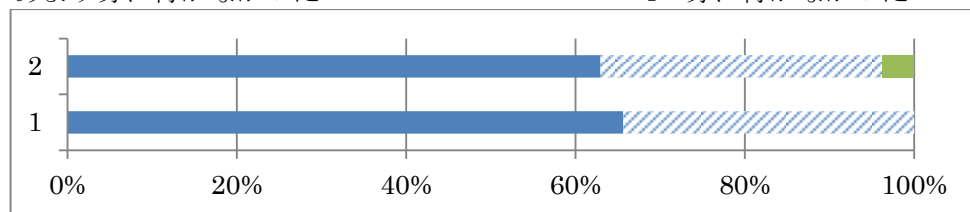
もう少しいろいろな話をすれば良かった。

2. 語学キャンプを通じて、諸外国の文化について理解を深めることができましたか。
- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 非常に深めることができた | 2 ある程度理解できた |
| 3 あまり理解することができなかった | 4 理解することができなかった |



【感想】 A L T の方の文化と日本の文化と比べながら聞くことができた。
イギリスと日本の歴史について考えることができた。

3. 語学キャンプを通して英語を積極的に話そうとする意欲や積極性が身につきましたか。
- | | |
|---------------|-------------|
| 1 身に付いた | 2 ある程度身に付いた |
| 3 あまり身に付かなかった | 4 身に付かなかった |



【感想】 英語で質問し、それに対する答えが返ってきたときもっと質問したいと思った。
積極的に話すように心がけて生活した。

⑤改善の方向性や取組

生徒は語学キャンプで集中的に英語を使い、ひとつのゴールに向けて活動に取り組む面白さを学んできた。また海外研修の事前準備の機会としても効果的であった。来年度は海外研修の事前準備という側面は残しつつ、英語を使ったタスク型の活動を他コースの生徒も巻き込んだ形で展開することで、批判的思考力や実践的コミュニケーション能力の全校的な育成を図る場としたい。外部有識者や本校OB、県内のA L Tにも参加してもらい、より多角的に物事をとらえる機会とする。

(2) 「イギリス海外研修」

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・英語発祥の地イギリスでの体験的・実践的研修を通して、本校1・2年次で学習し、身につけた英語活用能力・英語コミュニケーション能力を向上させる。
- ・異文化交流体験を通して、他者を尊重しつつ、かつ、積極的に自分の考えや主張を伝えようとする態度を養う。併せて、礼儀やマナーの意義について考えさせ、国際社会で活躍できる真のリーダーとしての資質を育成する。
- ・イギリスの伝統的な側面と、多民族国家としての側面を体験することによって、他国の歴史や文化、習慣を尊重する態度を養うとともに、国際的・多角的な視点に立って我が国を捉える豊かな知性・感性を涵養する。
- ・研修全体を通し、里山里海に代表される能登の風土や石川の伝統文化・工芸を現地に紹介し、ふるさとの魅力を発信する機会とする

③日時内容

日数	月/日	スケジュール
1	9月30日 (水)	北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST) 国際連携・国際交流担当学長補佐 川西俊吾教授によるワークショップ JAIST 見学 (杉田玄白の解体新書原本、ガリレオ等の作品見学) 空路ドバイに向けて出発 (機内泊)
2	10月1日 (木)	飛行機 乗り換え 空路ガトウィック空港に向けて出発 ホームステイに向けてオリエンテーション 各家庭へ (ホームステイ)
3	10月2日 (金)	現地生徒との交流 (ディスカッションなど) 現地生徒との交流 (日本文化の紹介) ホストファミリーの家に帰宅 (ホームステイ)
4	10月3日 (土)	ケンブリッジ大学生によるキャンパスツアー ケンブリッジ大学生とのディスカッション ホストファミリーの家に帰宅 (ホームステイ)
5	10月4日 (日)	終日ホストファミリーと過ごす (ホームステイ)
6	10月5日 (月)	ロンドン市内研修 (歴史的建造物や書物から文化財への知見を深める) 海外で活躍する日本人による講演会 (ホテル泊)
7	10月6日 (火)	専用バスにて空港へ 空路ドバイに向けて出発 (機内泊)
8	10月7日 (水)	飛行機の乗り継ぎの関係で ドバイ滞在 (ホテル泊)
9	10月8日 (木)	空路日本に向けて出発 七尾高校到着後、解散



現地校生とのディスカッション

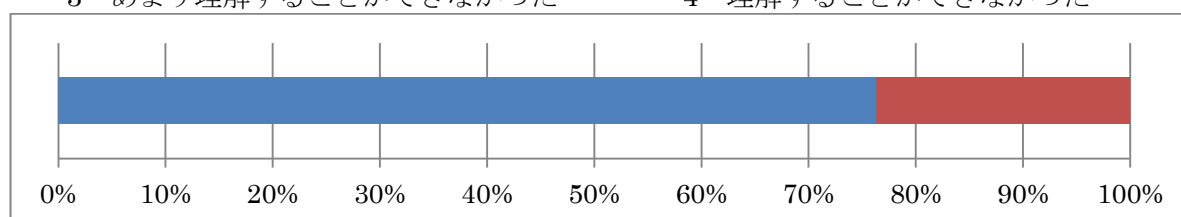


ケンブリッジ大学でのプレゼンテーションの様子

④生徒の変容

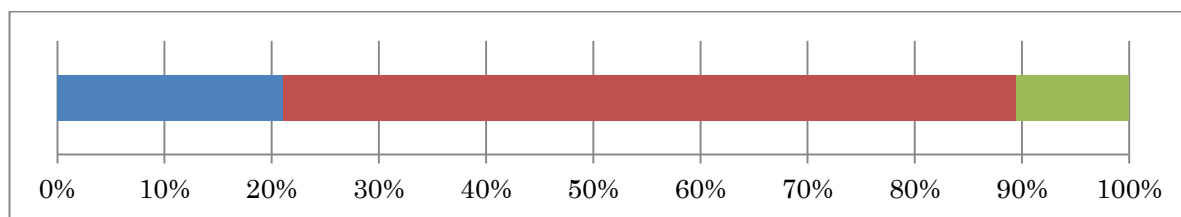
【事後アンケート結果】

1. 事前学習やホームステイを通じて、イギリスの文化について理解を深めることができましたか。
- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 非常に深めることができた | 2 どちらかと言えば理解できた |
| 3 あまり理解することができなかった | 4 理解することができなかった |



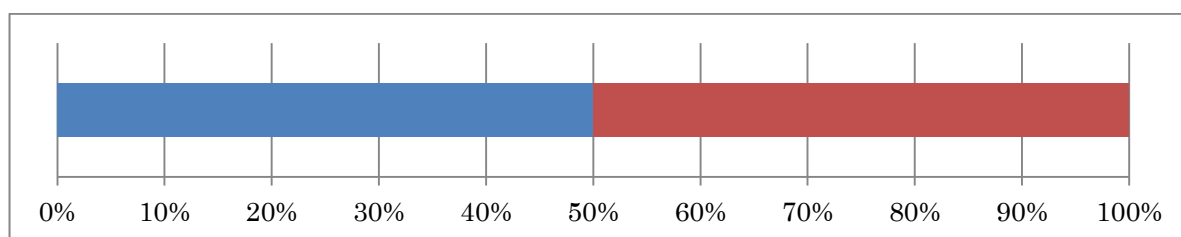
2. 現地の生徒たちと交流することで、英語によるコミュニケーション能力を高めることができましたか。

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1 非常に高めることができた | 2 どちらかと言えば高めることができた |
| 3 あまり高めることができなかった | 4 高めることができなかった |



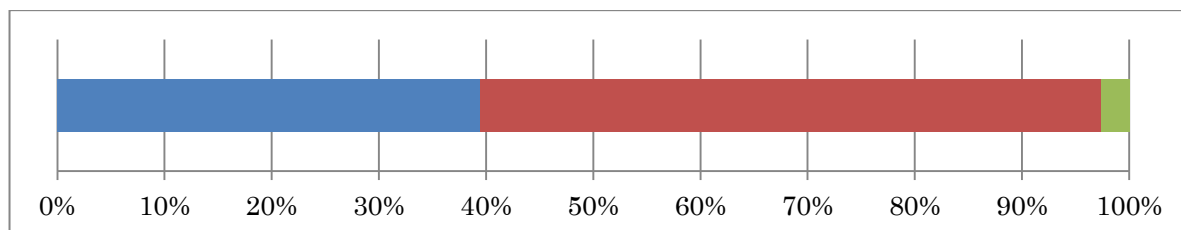
3. ケンブリッジ大学訪問を通じて、学ぶ意欲が高まりましたか。

- | | |
|---------------|-----------|
| 1 非常に高まった | 2 高まった |
| 3 あまり高まらなかった。 | 4 高まらなかった |



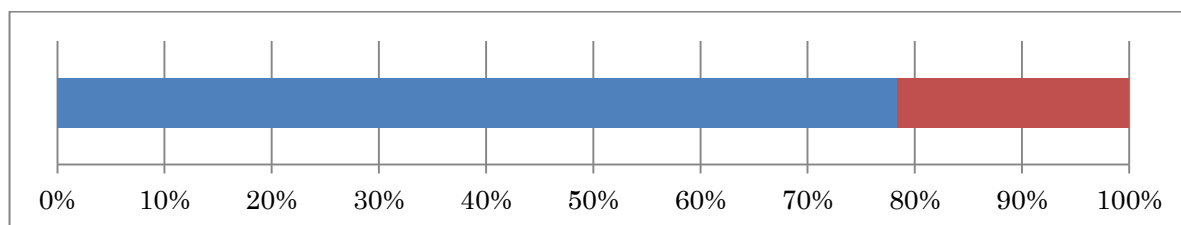
4. ケンブリッジ大学でのプレゼン発表に手応えを感じましたか。

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 非常に手応えを感じた | 2 手応えを感じた |
| 3 あまり手応えを感じなかった | 4 手応えを感じなかった |



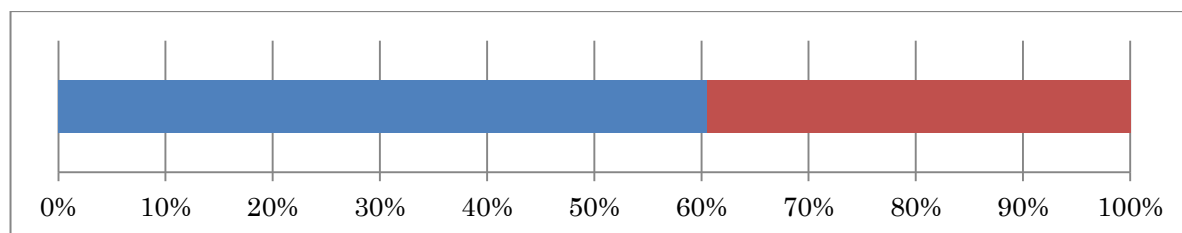
5. この海外研修で英語を積極的に話そうとする意欲や積極性が身につきましたか。

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 身に付いた | 2 どちらかと言えば身に付いた |
| 3 あまり身に付かなかった | 4 身に付かなかった |



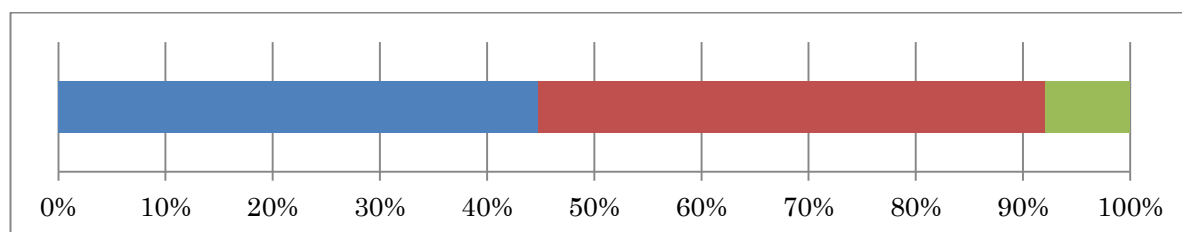
6. 事前学習を通じて、能登の里山里海について理解を深めることができましたか。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1 非常に深めることができた | 2 ある程度深めることができた |
| 3 あまり理解できなかった | 4 ほとんど理解できなかった |



7. 海外研修を通じて、能登の里山里海を理解してもらえましたか。

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 とても良く理解してもらえた | 2 ある程度理解してもらえた |
| 3 紹介することはできた | 4 ほとんど紹介できなかった |



【生徒の感想】

- ・自国の文化を紹介して、相手の国の文化のことも教えてもらうことで、自分が少しずつ世界に足を踏み入れているような気がしました。
- ・自分の常識が相手の常識ではない中で自分の意志を伝えることの難しさを学んだ。
- ・イギリスという視点から日本を見ることによって両方の長所短所が分かり実際に異文化に触れることがいい経験になった。
- ・正しい文法を使い、相手に自分の気持ちを伝えるには日常的に勉強しないといけないと分かりました。
- ・イギリス人は日本人みたいに相手が思っていることは言葉にしない限り理解しないので、Yes, Noをはっきりさせたり、自分の意見をしっかり持たないといけないと思いました。
- ・イギリスのTVニュースでは国際ニュースに重点があった。

⑤改善の方向性や取組

長い伝統と歴史に裏付けられたグローバルな視点・メンタリティを学ぶとともに、これまでの取り組みを無駄にしないためにも、課題研究の内容がより充実するよう改善を加えながらイギリスでの研修を継続していく。

4. その他の取組

(1) NSH成果発表会

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 1年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

- ・自分の意見を明確に相手に伝えることができる。
- ・相手の意見に対して的確な質問ができる。
- ・相手の質問に応答できる。

③日時内容

平成27年12月17日(木)



ディベートの様子①



ディベートの様子②

④生徒の変容

【生徒の感想】

- ・想定していなかった相手の質問に対して答えることが出来た。
- ・英語を使ってディベートをして自分の英語力を試すことが出来た。

⑤改善の方向性や取組

今年度は発表ではなく、指導の過程を外部の方に参観してもらった。来年度はこれを踏まえてディベートの試合を見てもらい、評価してもらう。

(2) NSH合同セミナー

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 20名 1年 10名

②目指すべき姿・つきたい力

確かな基礎力を備えた県内トップレベルの高校生が学校や学年の枠を越えて切磋琢磨する中で、論理的な深い思考、協働作業による問題解決、自らの言葉による積極的な発信を経験し、新しいステージへ飛躍する契機とする。

③日時内容

平成27年12月19日(土)

④生徒の変容

他校の生徒と接することにより刺激を受けることで自分をより高めようという意識が芽生えてきた。

⑤改善の方向性や取組

特になし

(3) NSH課題研究合同発表会

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

NSH校で実施している課題研究について、合同発表を行うことで切磋琢磨し、社会的事象を探究する面白さを実感させるとともに、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

③日時内容

平成27年1月29日(金)

七尾高校の発表	「日英の文化比較」	全体発表
	「日英の食比較」	ポスターセッション形式
	「日英のおもてなし比較」	ポスターセッション形式



全体発表の様子



他校の発表に質問

④生徒の変容

21ホームの生徒はどの発表も英語で行ったが、「効果的にジェスチャーを取り入れ理解しやすい」、「また英語が流暢で聞きやすい」と他校の生徒や先生方から評価されていた。質疑応答の際に他校の英語の先生から英語で質問されたときも、英語で回答していた。

また、他校の生徒の発表の際には、21ホームの生徒たちは、200名以上もの聴衆がいる中で最初に質問をただけでなく、発表者に対し鋭い視点で質問を投げかけ、十分な回答が得られるまで何度も聞き直すなど、日頃から鍛えている批判的思考力やイギリス研修で身につけた自分の意志を明確に示すことを実践していた。

⑤改善の方向性や取組

本校は課題研究という体裁をとっておらず、発表に重点が置かれていたため、他校との比較も難しかった。本発表会の主旨を踏まえ、来年度は仮説とその検証に重点を置き、活動を組み立て直していきたい。

(4) 社会と関わる土曜学習

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース 2年 40名

②目指すべき姿・つきたい力

地域に対する愛着と理解を深め、自信を持って海外にふるさとを発信できる。

③日時内容

7月～9月

能登の観光資源を活かしたインバウンド観光を促進する方策を探究し、その一環として能登の里山里海の魅力を伝えるプロモーションビデオを制作した。能登の4市（七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市）を現地取材し、能登の魅力を外国の人々に発信する内容である。生徒は「地理・気候班」「古代史班」「中世史班」「文化班」「祭り班」「食班」「産業班」「国民性班」の8班に分かれ、現地で取材した内容を検討し、英語でナレーションを考え、約16分のビデオにまとめた。完成したビデオは9月30日より9日間の日程で行われたイギリス海外研修に持参し、現地の交流先の学校やホームステイ先で紹介し、配付した。



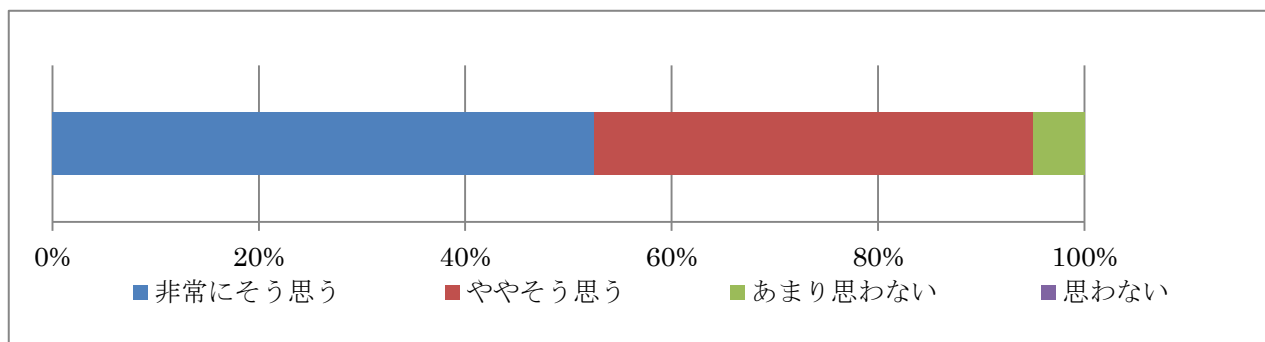
(株) スギヨへの取材



制作したDVD

④生徒の変容

Q.「社会と関わる土曜学習」の活動を通じて、「ふるさとに対する愛着」や「ふるさとを発信する意欲」が高まった



⑤改善の方向性や取組

内容に新味を持たせて、新しい視点から能登の魅力を発信する。

(5) 2年生特別活動研修報告会

①参加生徒 2年生全員

②目指すべき姿・つきたい力

2年生がそれぞれの活動を発表し合い、互いに刺激し合うことで新たな活動にチャレンジする意欲を喚起する。

③日時内容

平成28年2月25日(木)

2年生特別活動研修報告会において、普通科普通コース、理数科、そして文系フロンティアコースが、それぞれの特色ある活動を相互に発表し合った。その中で文系フロンティアコースは今年度の活動のまとめとして、海外研修から学んだことを報告した。



海外研修の報告の様子



質疑応答の様子

④生徒の変容

「文化班」の日英の建築物の違いについての説明や、「古代史班」の日英の同時期の古代の比較は、内容がよく練られており、英語での発表にもかかわらず普通コースや理数科の生徒にもわかりやすく伝わっていた。もう一つのテーマであったプレゼン技能の向上については、堂々とした態度や聴衆を意識した話し方ができており、海外研修や他校での発表の経験を通して成長ぶりを披露することができた。

⑤改善の方向性や取組

それぞれのコースのその後の活動の充実につなげる機会となるよう、実施時期を検討する。

(6) ボランティアマネジメント

①参加生徒 普通科文系フロンティアコース1年の有志（企画・運営）

（ボランティア参加者は全校生徒の有志および本校近隣の5小学校の児童）

②目指すべき姿・つけたい力

郷土を愛し貢献する心を学ぶと共に、様々な関係機関との交渉を通して協働の精神を学び、企画力や交渉力を身につける。地域に対する愛着と理解を深め、自信を持って海外にふるさとを発信できる。

③日時内容

平成27年7月26日（日）、8月2日（日）、8月29日（土）

活動自体は通年（4月中旬に結成、合宿参加、準備期間、1月末の報告会まで）

今年度は、本校11Hの生徒がボランティア運営の講座に参加するなどして専門的に学んだのち、七尾市内をフィールドワーク調査し、「小学生と七尾高校生とが協力し合って地域をきれいにする」ことを目的とした「Let's Clean Nanao & Wakura Bay 2015」プロジェクトを立ち上げた。小学生の参加を募り、各小学校など他団体との交渉を経験した。この活動を全校的に広めて高校生スタッフの参加も募り、和倉地区・七尾地区で合計約200名の参加者があった。年度末には石川県高校生ボランティアリーダー養成事業の活動報告会に参加し、他校生との情報交換を行った。



「Let's Clean Nanao & Wakura Bay 2015」の様子

④生徒の変容

事前レクリエーション会では、プレゼンテーションやゲームを通してゴミの分別やボランティアの意義について年少者に伝わるよう工夫するなど異年齢間の交流を図ることが出来た。清掃活動でも、参加小学校との連絡を密に取りながら運営を図ることで交渉力を身につけた。

⑤改善の方向性や取組

収集した廃棄物の処理方法について検討の余地がある。また、近隣小学校の参加・協力が不可欠であるので、毎年活動を継続し、スムーズに連携できるように引き継ぐ必要がある。